

**製品名:** ヒストン脱アセチル化酵素 6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab12048

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	135kDa

**抗原情報**

遺伝子名	HDAC6
別名	HDAC6; KIAA0901; JM21; Histone deacetylase 6; HD6
遺伝子 ID	10013.0
SwissProt ID	Q9UBN7
免疫原	抗血清はヒト HDAC6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1166-1215

**背景**

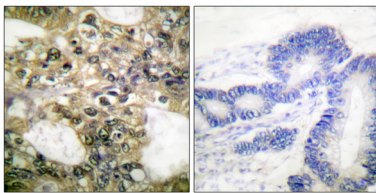
ヒストンは転写調節、細胞周期の進行、そして発生過程において重要な役割を果たします。ヒストンのアセチル化/脱アセチル化は染色体構造を変化させ、転写因子の DNA へのアクセスに影響を与えます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヒストン

脱アセチル化酵素 / acuc / apha ファミリーのクラス II に属します。このタンパク質は、互いに独立して機能すると考えられる 2 つの触媒ドメインの内部重複を有しています。このタンパク質はヒストン脱アセチル化酵素活性を有し、転写を抑制します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ヒストンの N(6)-アセチルリジン残基を加水分解して脱アセチル化ヒストンを生成します。機能: コアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) の N 末端部分のリジン残基の脱アセチル化を担います。ヒストンの脱アセチル化は、エピジェネティックな抑制の標識となり、転写制御、細胞周期の進行、そして発生過程において重要な役割を果たします。ヒストン脱アセチル化酵素は、大きな多タンパク質複合体の形成を介して作用します (類似性による)。チューブリンの脱アセチル化を介して、微小管依存性細胞運動において中心的な役割を果たします。PTM: in vitro で SUMO 化されています。PTM: ユビキチン化されています。しかし、ポリユビキチン化は分解にはつながりません。類似性: ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属します。タイプ 2 サブファミリーです。類似性: 1 つの UBP 型ジンクフィンガーを含みます。細胞内局在: 主に細胞質内に存在し、微小管と結合しています。サブユニット: CBFA2T3、HDAC11、SIRT2 と相互作用します。F アクチンと相互作用します。BBIP10 と相互作用します。

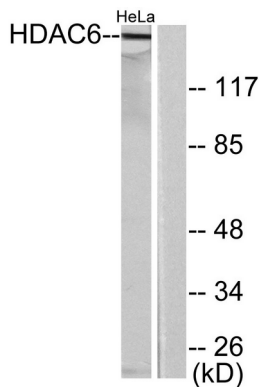
## 研究分野

タンパク質アセチル化

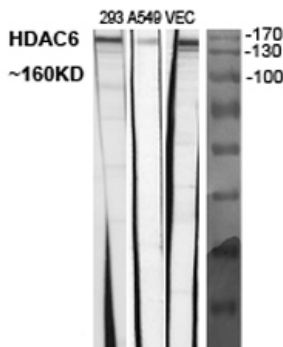
## 画像データ



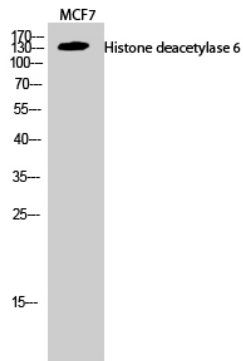
HDAC6 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



HeLa 細胞ライセートの HDAC6 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ヒストン脱アセチル化酵素 6 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



ヒストン脱アセチル化酵素 6 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた MCF7 細胞のウェスタンブロット解析